

# レが 公民館報

第300号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

### 四賀の世帯数・人口

世帯数	1,943	世帯
人口	4,822	人
男	2,328	人
女	2,494	人

(平成27年9月1日現在)

## 第30回

# 四賀コンサート開催

## 松本市四賀音楽村誕生

歩み続けて三〇年——県民コンサートin四賀



コンサートの始まりは「四賀鼓龍会虚空蔵太鼓」です。「華やぎ」「建」が迫力いっぱい演奏されました。

昭和六十一年に第一回が開催されてから回を重ね、今年三〇回となり、県民コンサートとして四賀コンサートが九月五日に開催されました。会場は四賀小学校体育館では開場前から大勢のお客さんが列を作りました。

開演に先立ち坪田副市長による挨拶が行われ、阿部県知事からのメッセージもありました。実行委員長の百瀬公民館長より会田中学校吹奏楽部が県のコンクールで二年連続の金賞を受賞したことが発表され、大きな拍手がありました。

休憩の後、「松本市四賀音楽村」の発足が宣言され、今回のゲスト演奏の天満敦子さんが村長に就任されるセレモニーが行われました。

松本交響楽団が入場し、合唱団の皆さんもステージに登壇し、「地球星歌」大切なもの「大地讃頌」「四賀秀麗」を合唱しました。その後、ポスター制作の本田先生と合唱指導の内川先生への花束贈呈がありました。



連続金賞受賞の会田中学校吹奏楽部は、コンクール曲の「小鳥売りセレクション」と「ポップドラゴンナイト」を演奏、拍手を受けました。



セレモニーが終わり、天満敦子さんのヴァイオリンと松本交響楽団によるベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲 ニ長調」が演奏されました。聴衆の皆さんはしわぶき一つなく聴き入っていました。

演奏終了後、万雷の拍手があり、花束を受け取られた天満さんが、静かに雪の降る街を「独奏されました。会場全体が静まり返り、ヴァイオリンだけが響き渡りました。最後に会場全員で「信濃の国」を歌い、四賀コンサートは終了となりました。



県民コンサートin四賀 第30回 四賀コンサート



松本市四賀音楽村発足  
村長は天満敦子さん

「四賀コンサート三〇回の歴史に立って音楽文化の定着を目ざし、四賀地区を『松本市四賀音楽村』にし、音楽村の村長に毎年四賀地区でコンサートを開催していただいている世界的ヴァイオリニストの天満敦子さんをお願いしたい」という提案が百瀬公民館長よりありました。この提案は、第三〇回四賀コンサートの会場で承認され「松本市四賀音楽村」が発足し、村長に天満敦子さんが就任されました。

四賀地区担当  
清本 悠 保健師

四賀支所にいます!

- 10月20日(火) 9:00~11:00
- 11月2日(月) 1:00~3:00





# 四賀地区地域づくり協議会

## 会長と3人の部会長に聞く



福祉健康部会  
部会長 和田昌朝さん



生活安全環境保全部会  
部会長 金井治夫さん



地域振興活性化部会  
部会長 丸山則行さん



四賀地区地域づくり協議会  
会長 大澤好市さん

「公民館報しが」が四賀村時代から通算で三〇〇号となり、それを記念して、六月二十八日に発足した「四賀地区地域づくり協議会」の会長さんと三つの部会の部会長さんにお集まりいただき、これからの四賀地区の地域づくりについて伺います。

支える人が減ってきたので、若い人だけではなく元気な高齢者に参画してもらい、持続可能な地域づくりをしたい。そのため①地域包括ケアシステムを構築するための「地域ケア会議」を立ち上げる。

②健康寿命延伸対策に取り組む、自立した生活を目指すため、運動の推進、食生活の向上などを目的に健康講座を開きたい、と考えている。

③「住民がいきいきと暮らせること」などを目標に発足した協議会ですが、具体的にどんな活動をしていこうとお考えですか。

和田さん：高齢化を暗いイメージでとらえず、自立した元気な高齢者が多いので「四賀地区では七十歳台を高齢者と言わない」運動の推進をする。七十歳台は農業では現役だ。

金井さん：「松くい虫から緑を守りたい」「ゴミが捨てられている所がある」「AEDの設置管理についての検討をしてほしい」などの意見があり、できることから進めていきたい。公共交通の改善も考えていく。

丸山さん：焦点が絞れていませんが、町会長の任期を長くし、町会の活動を計画的に盛り上げていこうという意見もあつた。大澤さん：四賀地区の福祉はトップクラスの評価を受けている。

和田さん：四賀地区はかつて交通の要衝だった。一四三号改良は長年の悲願。四賀地区は魅力があるので移住する人が増えているが、移住希望者に貸すことを積極的に考えたい。

大澤さん：平成26年度に策定された「四賀地区における中山間地創蓄省エネルギー化モデル構想」を具体的に検討していきたい。

丸山さん：地域づくり活動には財源が必要だ。町会から活動費の補助を検討して欲しい。

大澤さん：防災活動費を町会が補助する地区もあるので考えられるとは思っている。

司会：いろいろな意見を伺いました。今後の協議会の活動を盛り上げ、四賀地区の地域振興、活性化を推進していただきたいと願います。本日はありがとうございました。

丸山さん：平成26年度に策定された「四賀地区における中山間地創蓄省エネルギー化モデル構想」を具体的に検討していきたい。

大澤さん：四賀独自の特産品も加工して付加価値をつけることが大事だ。

金井さん：株式会社的なものをつくつたらどうか。

丸山さん：地区のイターン・Uターンの皆さんと意見交換しながら一緒に地域づくりを進めたい。彼らから学ぶことは多いと思う。元気づくりのイベントが行われているが、宿泊施設が少なくお客さんが他地区で泊ってしまい、お土産の販売にもつながっていない。

一四三号は東京への最短路と考えると考える。

和田さん：四賀地区はかつて交通の要衝だった。一四三号改良は長年の悲願。四賀地区は魅力があるので移住する人が増えているが、移住希望者に貸すことを積極的に考えたい。

大澤さん：町会長任期は大きな課題だ。一四三号は住民全体で一致団結して推進する必要がある。

司会：一四三号で人の流れが増えると四賀の良いところが見つけてもらえるので、そういう方向に向かつてほしいものです。